

<b>Title</b>	末期医療の現場で交流分析はどのように役立つか（共同研究報告：臨床死生学研究）
<b>Author(s)</b>	越智，裕子
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-No.5 : 15-16
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2888">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2888</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

か」との内容で以下のような報告があった。

### 1. 人は死をどのように受け止めるか。

本講演者は、死の受け止め方として以下の3つの理論を、彼女の臨床体験を踏まえ報告している。まず初めは、キューブラ・ロスの見解、そして、それを批判したE.シュナイドマンの理論、最後に交流分析の視点である。本講演では、以下の交流分析について報告された。

### 2. 交流分析とは：6つの基本理論

交流分析とは、1950年代に英国の精神科医E.ベーンにより創始され、人間の心と行動に関するパーソナリティー理論であり、同時に、人間の成長と変化を目指す心理療法の一体系である。具体的には、精神分析理論に基づき、人間の人生を一編のドラマと捉え、幼児期の問題解決の仕方の強化が、人間の脚本のテーマとなり、それにそって後の人生を生きて行くというものである。

この交流分析には以下の6つの基本理念がある。①自我状態の分析、②やり取りの分析、③ストロークの要求とデイスカウント、④心理的なゲームの分析、⑤人生における基本的構え、⑥人生の脚本の分析である。本講演では、特に①と②、③について詳細に報告がなされた。

### 3. 交流分析による「人格適応論」について

交流分析には人格適応論の視点をういた分析がある。これは、ポール・ウェアらにより開発された理論で、6つの人格適応タイプがあるとされているが、大別すると、生き延びるための適応と行動上の適応があり、それぞれのタイプから1つずつ持っていると言われている。生き延びるための適応で、3歳ぐらいまでに発達させるもの。①スキゾイド型（創造的な白昼夢者）、②パラノイド型（才気ある懷疑者）、③反社会型（魅力的な操作者）がある。また、行動上の適応で6歳ごろまで発達するもの。④受動攻撃型（おどけた反抗者）、⑤脅迫観念型（責任感ある仕事中毒者）、⑥演技型（熱狂的過剰反応者）である。

### 4. 交流分析・「人格適応論」が末期医療の現場でどのように役立つか

最後に、実践報告としてガンの末期患者に対する交流分析や人格適応論を用いた研究についての報告があった。特に、ここでは、末期医療に交流

#### 【臨床死生学研究】

#### 末期医療の現場で交流分析はどのように役立つか

2011年1月29日にさいたま新都心聖学院大学ビジネス交流プラザ4階聖学院教室にて臨床死生学研究会が開催された。参加者30名、講師として、ルーテル学院大学大学院 白井幸子氏が招かれ、「末期医療の現場で交流分析はどのように役立つ

分析と人格適応論を用いることの意義として、以下の3つについて報告している。①その人の性格傾向・行動パターンを理解するように役立つ、②その人が死をどのように受け止めて行くかを理解するように役立つ、③死に直面した時私たちが何を望むかを知ることができる、である。

以上が、白井幸子氏による、「末期医療の現場で交流分析はどの様に役立つか」の講演内容となる。

(文責：越智裕子 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程)

(2011年1月29日、新都心ビジネス交流プラザ4階聖学院教室)